

時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

こうがくねんむ 2025年 冬号



発行：時津町立時津図書館

## 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。  
難しいルールは要りません。  
家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。

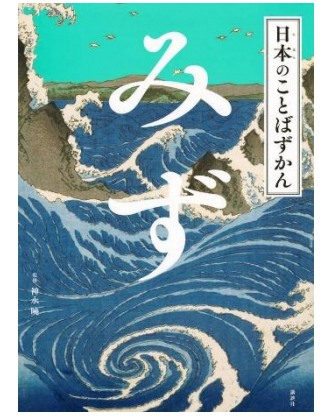


Illustrator ATSUKO



「願いがかなうふしぎな日記 [4]」  
本田 有明//著 (PHP 研究所)

小学6年生の光平は、冬休みから卒業までカウントダウンしながら日記をつけることにした。クラスで変なあだ名をつけられている望月くんのことや、入院した担任の先生のことを書きながら、その日記に目標も書き始める。すると、日記にかいたことが次々とかなっていく。日記を書いて成長していく少年をえがいたシリーズの4作目。



「日本のことばずかん みず」  
神永 暁//監修 (講談社)

チョロチョロ、ザーザー、ザブーン…。日本語には水の様子を表す表現がいろいろあります。水にまつわる言葉は他にもたくさん。川や海など、豊かな自然に囲まれた国だからこそかもしれませんね。身近にある、水に係る言葉を探してみましよう。



「アイとムリ」

エガース//作 ショーン ハリス//ヨハネスの絵  
代田 亜香子//訳 (小学館)

公園で暮らす犬のヨハネスは、目に見えないくらい速く走ることができるため、この公園での出来事を見張って報告する“アイ(目)”の役割を担っている。そんなヨハネスは、ある日みた“四角形”にとっても興味をひかれる。やがて、ヨハネスは他の動物たちとある計画をたて、実行しようとする。アメリカで児童文学賞を受賞した注目の一冊。



「大谷翔平特集」

世界を目指すみんなの教科書」  
repicbook 編刊 (repicbook)

今年も MVP を受賞した大谷選手は、みんなのあこがれの野球はもちろん、人としても、誠実で優しく、笑顔が素敵なお兄さん。そんな大谷選手だけど、少年時代はみんなと同じ、普通の小学生だった。ただ、ちょっとだけ大きくて、ちょっとだけ運動ができた。それが、どうやってメジャーリーグにいて、これほどまでの偉大な選手になったのか。大谷選手の少年時代をのぞいてみよう。



「きたきつねとはるのいのち」  
手島 圭三郎//絵 文 (絵本塾出版)

北海道の雪山にはきたきつねをはじめとした、多様な動物たちが暮らしています。しかし、彼らにとって「ふゆ」を生き抜くのは、簡単なことではありません。獲物を追ったり、追われたりしながら、彼らは懸命に春まで生き抜こうとするのです。  
雄大な自然の中に生きる命の尊さを感じられる絵本です。



「さかさまさかさ」  
ピーター ニューエル//作 高山 宏//訳 (亜紀書房)

本をひっくり返すとあら不思議。同じ絵なのに、さっきまで違った絵に見える！  
絵をひっくり返したただけなのに、人の表情が変わったり、別の生き物になったり。  
アメリカの作家ピーター・ニューエルによって約130年前にかかれた想像力を育むユニークな絵本です